

現代社会の分断と宗教／カルト

―大学生における「生存Vの危機と救い」

①10:25～10:30

挨拶

川中 仁 上智大学神学部教授

②10:30～11:15

「私たちの生をふちどる宗教史」

西村 明 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授

③11:30～12:15

「大学生と宗教リテラシー 特にカルト予防の観点から」

川島 堅二 東北学院大学文学部総合人文学科教授

④13:30～14:15

「かけがえのない「あなた」の声を聴く ―危機と救いについて―

猪瀬 優理 龍谷大学社会学部教授

⑤14:30～15:15

「「カルト問題」の捉え方・教え方」

塚田 穂高 上越教育大学准教授

⑥15:45～16:45

シンポジウム

モデレーター 竹内修一 上智大学神学部教授

6月
10日
(土)

【開催方法】会場（定員50名）+オンライン（Zoomウェビナー）

【会場】上智大学中央図書館8階821会議室

【申し込み方法】受付期間：5/1～5/31

下記申込フォームよりお申込ください。お電話での受付は行っておりません。

※お申し込みの際「kiriken-co@sophia.ac.jp」からのメールを受信できるよう、

迷惑メール設定から解除、または受信設定をお願いいたします。

※申込期間以外の受付はお断りさせていただきます。ご了承ください。

（申込フォーム）<https://forms.office.com/r/qfhhpesy2t>



【聴講料】お支払は銀行振込みのみ。詳細は申込者へ別途ご案内いたします。

一般 1,000円 / 学生 800円

【問合せ】ご不明点等ございましたらお問い合わせください。

メール：kiriken-co@sophia.ac.jp

電話：03-3238-3540（受付時間 月曜～金曜 11:00-16:00）

※開催方法、問合せ受付時間は変更になる場合がございます。

※最新情報等は研究所HPにてお知らせいたします。

※パソコンの操作についての電話でのお問い合わせにはお答えできかねます。何卒、ご了承ください。

第 50 回 連続講演会

現代社会の分断と宗教

カルト — 大学生における〈生存〉の危機と救い

講演会 趣旨

2022～23 年は、森友・加計学園問題に端を発する政治不信、COVID-19 の感染拡大にともなう社会的混乱、そしてウクライナ戦争に対する倫理的な敗北感に隠れ、メディアの表層から不可視化されてきたカルトの闇が、白日のもとに曝された年であった。安倍晋三元首相の暗殺事件を契機とした統一教会への追及は、想像を超えるその政治支配の実態を明らかにしつつあるが、政界も社会も本質的な自浄作用を発揮していない。両親による一種の虐待ともいべき〈宗教二世〉へのケアも、喫緊の課題として起ち上がってきている。しかし、伝統的な宗教教団や宗教系大学も、いかなる方針や態度をもってこれらに対処しようとしているのか、あまり明確に現れてはきていない。そうしたなかで、種々の心理的抑圧に耐え続けてきた当事者たち——とくに未だ十分な社会的・経済的抵抗力を持たない若年層は、日々孤立を深めている。

列島社会を震撼させたオウム真理教事件以来、人びとは宗教全般へアレルギー反応を示すほど、カルトの動向に敏感になってきた。しかしわたしたちは、それから 30 年近くが経つうちに、かかる状況を忘れ去り、あるいは〈信教の自由〉を言い訳にして、問題から目を背けてきてしまったのだろうか。正対すれば自らの社会的責任を問われること、自らの闇とも対峙せねばならないことを自覚して、あえて気づかぬふりをしてきたのだろうか。新自由主義思想の浸透にともなう格差の拡大、自己責任論の蔓延と人格的繋がりの方断、そしてCOVID-19 の感染拡大がもたらした対面性の喪失。近年また、大学のキャンパスにおいても、根無し草になった学生たちが、安易な救いを求めてカルトに絡め取られる事例が後を絶たない。本年度の連続講演会では、現在大学生が直面している〈生存〉の危機とカルトとの関係を照射し、とくに宗教思想を建学の理念に据える大学が取り組むべき課題について、神道、仏教、キリスト教等の立場から考えてゆきたい。